



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.33 2008. 6



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
● 海外活動報告	
清華大学特別講義	2
シンガポール国立大学 (NUS) 特別講義	2
● イベント報告	
日本は世界のイノベーション・サイクルを主導できるか： 4カ国におけるリニューアル・サイクルの国際比較	2
ケネソー州立大学視察団来訪	3
「フュージョン商品作り研究会」招待講演	3
川崎市立川崎総合科学高等学校大学見学	3
● 最近の動き	4
● イベント予定	4
● 連絡先	4

SIMOT 研究報告

SIMOT の展開から丸 4 年経ち、同分野の研究で数々の注目すべき成果が挙がると共に、内外経済においてそれをサポートする進展が見られ、同時に、SIMOT に関わる博士課程学生・ポスドク研究員等を通じた次世代研究者育成も一定の成果を見せつつあります。

今月から、特に SIMOT を担う若手研究者の研究に焦点をしぼり、7 回のシリーズでその研究活動・実績の報告をいたします。詳細は、別添のプリントをご覧ください。

海外活動報告

清華大学特別講義

(2008年5月27-30日 北京)



渡辺センター長は、東工大・清華大学大学院合同プログラムの一環として、清華大学を訪問し、「Science of Institutional Management of Technology: SIMOT - Elucidation of Japan's Co-evolutionary Dynamism Accruing to Global Assets」と題して、SIMOTの取り組みを中核とした特別講義を行いました。

日本の過去40年の発展軌道をイノベーションとインスティテューションとの共進とその破綻・再活性を軸として分析した講義は、高度成長最盛期の1964年の東京オリンピックを彷彿させる、北京オリンピックを目前に控えた、高度成長を突き進む中国の発展軌道のあり方にも示唆を与える貴重な学習機会として、大きな関心を集めました。



シンガポール国立大学 (NUS) 特別講義 (2008年6月1-4日 シンガポール)

Facts & Figures

Global Standing

World's Top 15 in Technology

Times Higher Education Supplement-Quacquarelli Symonds (THE5-QS)

Rank	Institution	Country
1	Massachusetts Institute of Technology	USA
2	University of California, Berkeley	USA
3	Stanford University	USA
4	California Institute of Technology	USA
5	University of Cambridge	UK
6	Imperial College London	UK
7	Carnegie Mellon University	USA
8	Georgia Institute of Technology	USA
9	University of Tokyo	Japan
10	National University of Singapore	Singapore
11	University of Toronto	Canada
12	University of Oxford	UK
13	ETH Zurich	Switzerland
14	Princeton University	USA
15	Harvard University	USA

渡辺センター長は、清華大学から戻り、息つく暇もなくシンガポールに招かれ、シンガポール国立大学 (NUS) で、「Hybrid Management of Technology for Co-evolutionary Domestication in Open Innovation」とのテーマで特別講義を行いました。NUSは、日本の1/500の限られた国土にありながら、緑と近代建築をマッチさせた、東工大の10倍を超える広大なキャンパスを擁し、世界トップレベルのITをフルに活用しつつTimes誌の世界トップ大学ランキングでも10位にランクされる高レベルの研究教育に邁進しています。

現在、工学部の技術経営学科を中心に、世界最先端の技術資源を糾合してイノベーションネットワーク拠点の構築に取り組んでおり、SIMOTの研究教育活動がそのモデルになるということで、センター長が招聘されたということです。



イベント報告

日本は世界のイノベーション・サイクルを主導できるか：4カ国におけるリニューアル・サイクルの国際比較

(2008年6月11日(水) 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会6月例会では、グロービス経営大学院、インターナショナルMBAプログラム、ディーン ジョン・バック教授が、「Can Japan Lead a New Global Innovation Cycle?: An International Comparison of Four Countries in the Renewal Cycle」というテーマで講演されました。講演では、グローバルな環境の変容下でイノベティブな組織を形成するためのツールとして、組織内・組織外(環境)の軸とイノベーションの漸進的・革新的変化の軸の2軸により構成される『リニューアル・サイクル』が紹介され、各象限を Trial and Error, Planning,

Implementation, Improving の4つに分け、それぞれの象限において求められる企業行動について、戦後日本経済の変遷をはじめとする歴史上の実例を挙げつつ解説されました。さらに、日・米・中・独・露を対象とした企業意識調査を基にした、リニューアル・サイクルにおける各国の立場・求められる所作についてのレビューが示されました。

異なるインスティテューション下におけるイノベーション活動の要件に関する今回の講演は、SIMOTの目指すイノベーションとインスティテューションの共進化のメカニズムの解明に示唆を与えるものとなりました。



ケネソー州立大学視察団来訪 (2008年6月9(月)、12日(木) 東工大 西9号館 414号室)



米国ジョージア州アトランタに所在するケネソー州立大学(Kennesaw State University)より、同校の国際革新技術センター (International Center for Innovative Technologies) の学科長 Donald Amoroso 教授を筆頭に12名の学部生・院生が本学に来訪しました。

9日には経営工学主催のW9cafeに招待し、大学紹介のDVDを上映後、専攻、研究室紹介を行い、2班に分かれて、院生が引率してキャンパスツアー。その後、日本の誇る「幕の内弁当」の昼食後、日本文化や我が国のITサービス産業の現状についてのクイズを出題し、短時間ではありましたが、日本についての理解を少し深めていただきました。

また、12日にはSIMOTの研究プログラムを視察するとともに、「インスティテューショナル技術経営 第一」の授業に参加しました。講義では、小林信一特任教授(筑波大学教授)が、博士養成における日本の大学院教育の問題点、博士取得者のキャリアパス、および日英両国の大学院教育の改革の必要性について論じました。続いて行われたブラウンバッグセッションでは、安田洋史特任教授(東芝セミコンダクター・カンパニー戦略アライアンス部長)が、2007年度までの10年間の世界市場における各国企業の半導体シェア動向と、東芝の半導体部門の今後の戦略について紹介しました。両教授の講義とも、日本のユニークなインスティテューションの分析とグローバル化への対応という点で、同視察団の関心を喚起し、質疑応答も予想以上に活発に行われました。

講義終了後、Donald Amoroso 教授がケネソー大学の歴史を含め全般的な紹介をされ、特に同校の国際性について強調されました。同教授は、SIMOT との建設的な協力関係に強い意欲を示されました。



「フュージョン商品作り研究会」招待講演 (2008年6月19日(木) セイコーエプソン(株)新宿 NSビル本店)

菊池 SIMOT 特任教授は、「フュージョン(融合)商品作り研究会」の定例研究会に招かれ、「サービス化の本質と日本企業」と題する講演を行いました。同研究会は、自動車、衛生機器、製薬、製菓、エレクトロニクス、音響、飲料、日用品、食品などの業界における日本の主導的なメーカーの部長クラスの有志で構成され、定例研究会は隔月で開催されています。革新的なヒット商品作りが益々困難になりつつある現在、解決策として有効なのは、生活者とのフュージョン(融合)、他業界を含む他企業とのフュージョン(融合)という2つのフュージョンの方向性であるという問題意識が根底にあります。同特任教授は、「Systemic Service」(統合型サービス)とそれを生み出す企業レベルのインスティテューショナルな基盤つまり組織資源・資産である「Service Power」から成る「Service System」を構築することが日本企業の喫緊の課題であると論じ、日本のインスティテューションと様々な内容のサービスの親和性や日本企業のハードルなどについて論及することで講演を締めくくりました。

川崎市立川崎総合科学高等学校大学見学 (2008年6月26日(木) 東工大 西9号館)



理工系トップレベルの大学で施設・設備などを見学し、進学への意識を高めることを目的に、川崎市立川崎総合科学高等学校の生徒が本学に来訪しました。SIMOT 主専攻たる経営工学は、同分野への近年の注目の高さを反映し、全体の1/4の9名の生徒が見学を希望しました。

当日は、SIMOT 拠点リーダー渡辺教授の研究室を中心に、教員室・学生室を見学するとともに、折りよく行われていたSIMOT 中核授業「インスティテューショナル技術経営第一」を参観しました。日本人学生・留学生が英語で活発に議論し合う、高校とはまったく異なる授業風景に圧倒されたようでしたが、講師に促され、英語で質問をする場面などもありました。次代を担う国際リーダー育成を主目的のひとつとするSIMOTとして、今回の高校生との交流は、相互に影響しあい、得るものがあつたと確信しております。



■ イベント予定 ■

研究・技術計画学会 国際問題分科会 7月例会

日 時 7月4日(金) 18:00 - 20:00
 場 所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室
 テーマ 「エネアグラムによるスタートアップ・ベンチャーのリーダー診断
 - インスティテューショナル技術経営学への示唆」
 講 師 阿片 公夫 氏 (虎ノ門経営企画株式会社 代表取締役社長)



第5回 Inter-COE シンポジウムの様子

第6回 Inter-COE シンポジウム - SIMOTセッション

日 時 8月8日(金) 13:00 - 17:00 (予定)
 場 所 東京工業大学 西9号館
 テーマ 「君たちが創る日本企業の未来
 ~品格と希望とやりがいと満ちた日本に向けて~」
 内 容 日本という環境(インスティテューション)の中で、
 企業はどう品格ある繁栄に向かえるだろうか？
 グローバル化が叫ばれる時代に、君たちは何をこの国の企業に期待し、また貢献できるだろうか？
 オープンに想いを分かち合おう。



SIMOTセッション

日独共催国際シンポジウム「高齢社会におけるビジネスチャンスと企業責任」

日 時 10月3日(金)・4日(土)
 場 所 国際連合大学本部 国際会議場
 主 催 ドイツ-日本研究所、ハンブルグ工科大学、国際連合大学、東工大 SIMOT
 詳 細 <http://www.dijtokyo.org>

日米共催国際シンポジウム「技術経営の新たな方向」

日 時 10月12日(日)・13日(月)
 場 所 東大生産研究所
 主 催 研究・技術計画学会、日本工学アカデミー、IEEE
 詳 細 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssprm/english.html>

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム
 「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
 東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
 西9号館 208B号室
 TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250
 Email: yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp
 URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/>
 編集者: 菊池 隆